

ゆい 結通信

NO. 48

2021年4月15日

コロナ時代に新しいつながりを！

牧野 直子

3.11から10年を経て

東日本大震災から10年を迎えました。道路や建物などハードはできても真の復興はまだまだという声が聞かれます。肉親を津波で失ったり、つらい体験をした方の心はそう簡単には癒えないことでしょう。また、福島原発事故で引越しを余儀なくされた方々の思いに心を馳せるとき、私たちに何ができるかを考えこんでしまいます。

この10年の間に自然災害が多発しました。熊本地震や西日本豪雨、また2年前には大阪北部地震がありました。つい最近も福島、宮城で震度5～6の地震がありました。気候変動が実感される昨今です。

福島での原発事故を経験し、日本のエネルギー政策は脱原発に向かうのかと思いましたが、まだ再稼働にストップがかかっていません。そして、昨年からは新型ウイルスというあらたな脅威にさらされています。

初めての書面総会

「結みのお」の総会はいつも会員同士の交流を大切にしてきました。ところが新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出され、今年は総会で会員同士が顔を合わせることができませんでした。全会員の方に総会資料をお送りしたところ、沢山の方から提案やメッセージをいただきました。そのメッセージを通して多くの会員の皆様の思いに触れることができました。

2021年度はコロナの感染状況を見通せない中で例年のような形でのコンサートやバザーを開催することは難しいかもしれません。でも今だからこそできるつながり方を模索したいと思います。今までは当たり前だと思っていたことができなくなることで見

えてくることがあります。たとえばオンラインでの試みや、どなたでも参加できるはがき作戦です。今年は会員さんを4つのエリアに分けて年4回発行する「結通信」に声を寄せていただ



くことにしました。会員同士がお互いに誌面を通してつながることができるかもしれません。「結通信」をさらに会員の交流の手段として成長させていきたいものです。

そして今年度は、信頼関係に支えられた会員同士の助け合いや支え合いに力を入れると同時に、他団体との連携も積極的に進めていきたいと思ひます。

2025年問題と2030年問題

2025年問題をご存じですか？日本では少子高齢化がすすみ、団塊の世代が後期高齢者になり要介護の人が増えて厳しい社会になると言われています。「介護の社会化」と言われて2000年にスタートした介護保険制度ですが、このままではいずれ破綻しかねません。そんな将来を見越して「共助」の一つの試みとして「結みのお」は2009年にスタートしたのです。「災害と高齢社会」という重い課題を背負っています。

2030年問題というのは、2030年までに対策を講じないとプラスチックごみが地球上にこのまま増え続け地球がもたないということです。「大量生産と大量廃棄」のサイクルをこれ以上続けていくわけにはいきません。

いずれにせよ、次世代に持続可能な社会を引き渡せないということになれば、今の子どもたちから非難されても仕方ありません。現に今、若い世代の人たちが立ち上がり、声を上げ始めています。

あらたな方向を探ろう！

「災害と高齢社会」「大量生産と大量廃棄」これらの問題をこのまま放置するときと社会はもちません。新型コロナウイルスの出現はその警告ではないかと思えてなりません。今の市場原理に根ざした資本主義経済から命を第一にすえたあらたな方向を探るときが来ているのです。そのために私たちが何をすべきかともに考え知恵を出し合い、乗り越えて行きましょう。